

日本産業衛生学会東北地方会ニュース

みちのく

No.64

12/28

2020

発行/令和2年12月28日・発行所/日本産業衛生学会東北地方会事務局
住所/〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1 (東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内)
電話/022-717-7874・FAX/022-717-7883・e-mail/sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人/黒澤 一

日本産業衛生学会東北地方会を中止して

弘前大学大学院医学研究科
社会医学講座 教授
井原一成

例年、12月発行の「みちのく」には、「東北地方会を終えて」という巻頭言が掲載されますが、今回は「中止して」というタイトルとなりました。会員の皆様にはご存知の通り、第79回地方会は、COVID-19感染症予防のため、中止となりました。経緯は前号の「みちのく」で報告致しましたが、地方会学会長を拝命していた者として、伝統のある本会が中止となりましたことを改めて皆様にお詫び申し上げます。

なお、学会自体は中止となりましたが、黒沢一東北地方会長をはじめ皆様のご高配により、第79回の名前を青森に残していただきました。関係各位にこの場を借りてお礼申し上げます。これにより、来年度、秋田で開催される地方会は、第80回となります。

この半年、様々な学会が中止や延期になる一方で、インターネットを利用した学術集会在開催されるようになりました。東北地方会の皆様にも、ウェブ開催の学会に参加された方も多きことと拝察します。私も幾つかのウェブ開催に参加しましたが、遠方の開催地まで足を延ばさなくても、最新の研究の動向や医療・保健活動に触れ、自分たちの研究や保健活動の成果を発表することが出来る便利さを知りました。他方で、古くからの研究者仲間や若い研究者と生身で意見を交わし情報交換をすることの意義についても考えることにもなりました。来年5月に長野県で開催される第94回日本産業衛生学会が、会場およびライブ配信とオンデマンド開催とを併用するのは時宜に叶っていると思います。

まもなくSARS-CoV-2ワクチンが日本にも導入されるようですが、他方で感染力の強い変異種の発生が報じられています。12月、ある学会にウェブで参加しました。全国レベルの学会ですが、産業衛生学会の10分の1に満たない会員数の学会で、それならでは心のこもった学会でした。ZOOMを利用して、3人の大学教員で準備したとのこと。青森の地方会もこんな風に来たのかも反省しました(約半年の準備期間の差は大きいと思っております)。SARS-CoV-2は、新しい生活様式を求め、学校教育や産業にも大きな影響を与えています。SARS-CoV-2はまた、学会の在り方にも影響を与えるとともに、新しい知恵を生み出す機会でもあるのかも、と考えているところです。

第 80 回 日本産業衛生学会東北地方会学会のご案内 (第一報)

期 日：2021 年 7 月 23 日 (金) , 24 日 (土)

会 場：秋田県医師会館会議室 (秋田県総合保健センター内) (予定)

学会長：野村恭子 (秋田大学大学院医学系研究科衛生学・公衆衛生学講座 教授)

テーマ：ウィズコロナ社会の産業保健

内 容：2021 年 7 月 24 日 (土)：一般演題、特別講演、各部会

役 員 会：2021 年 7 月 24 日 (土)

総 会：2021 年 7 月 24 日 (土)

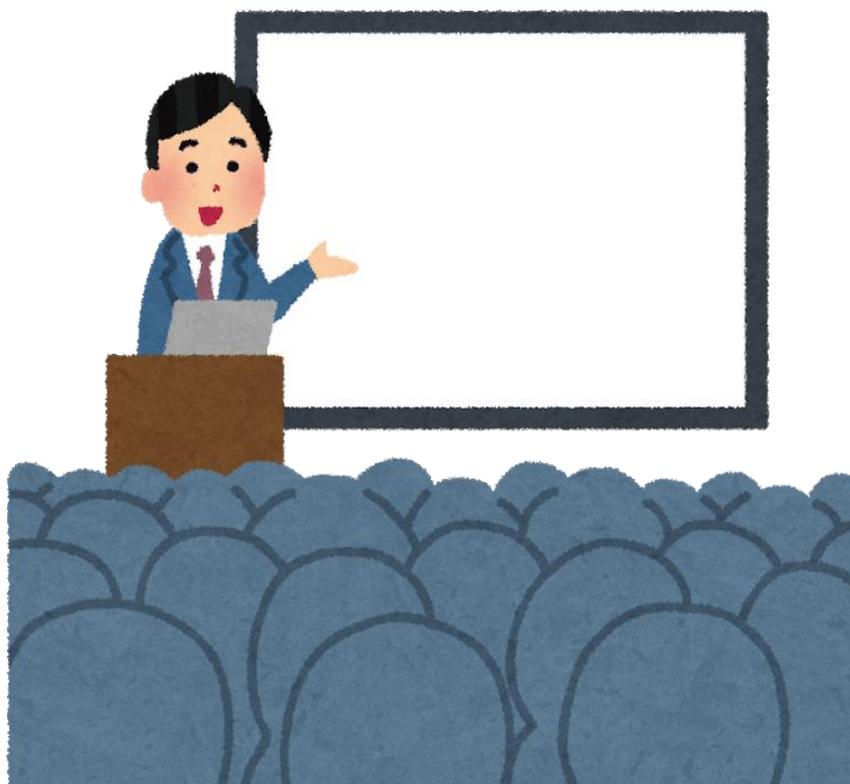
地方会各部会：2021 年 7 月 24 日 (土)

第 24 回 産業医協議会

第 27 回 産業看護の集い

第 15 回 産業衛生技術部会

産業歯科保健部会



ダイバーシティ推進委員会の紹介と活動報告

竹澤 公子（ダイバーシティ推進委員会委員、東日本旅客鉄道株式会社 産業医）

西 賢一郎（同委員長、ジャトコ株式会社 統括産業医）

野原 理子（同副委員長、東京女子医科大学 教授）

2018年9月に発足しましたダイバーシティ推進委員会（非常設）について、この場をお借りし紹介させていただきたいと思います。

他学会がダイバーシティに関する様々な取り組みを行っている中、日本産業衛生学会においても、ダイバーシティ推進に関し、学会員のモチベーションの向上、学会役員や学術講演会の指定演者・座長への女性・若手会員の登用、キャリアを途絶えさせないシステム構築、参加しやすい学会運営といったポジティブアクションに取り組むことが重要と考えます。本委員会は、会員のダイバーシティ（多様性）を考え、それぞれのニーズに応じた学会活動を行い、学会の活性化を図ることを目的とし、委員19名と担当理事2名の21名で構成されている委員会です。まず会員向けの活動から始めている段階ですが、この委員会が発展していくことで、産業衛生分野における「ダイバーシティ」について考える機会になればと思っております。

これまでの活動では、日本産業衛生学会内における男女共同参画に関する認識や実態を明らかにし、2019年度は学会における託児所設置状況等を各地方会長及び4部会の会長を対象にアンケート調査を実施しました。現段階で実行できている地方会や部会は少数にとどまったものの、男女や立場を問わず会員が活動しやすい環境を整備することは学会の更なる発展に重要な要素であるとの意見を得ています。

2020年度の活動として、第30回全国協議会の会期中に、初のオンラインシンポジウム「会員のダイバーシティを考慮した、2020年代の学会活動を考える」を開催しました。他学会の取り組み、女性医師活躍の立場から、日本糖尿病学会を代表して池田香織先生にご講演いただきました。キャリア継続のためのeラーニングの導入、学会HPでの女性会員向けのコンテンツ配信等、参考になるものでした。9月に委員会が全会員に対して実施した事前アンケート調査結果に基づき、パネルディスカッション形式で活発な討議を行いました。また、出産後学会から足が遠のいてしまった、育児中の学会参加に躊躇している会員の方に向けて、「子育て中の学術集会参加ヒント集（仮）」の作成を行っております。このヒント集から、学会参加時の事前準備や会員の経験談を知ることにより、学会参加の一助になればと思っております。

このように学会員からの意見を吸い上げ、それを一つずつ形にしていきたいと考えております。まだまだ学会内でのダイバーシティ委員会の認知度が低い状況にありますので、得られた情報を学会メルマガや総会・全国協議会にて情報発信を行い、一人でも多くの会員の皆様のお役に立てる委員会活動を行っていきたく思います。ご意見などいつでもご連絡いただけますと幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

産業医部会

コロナ禍の産業医活動

医療法人健友会 本間病院

菅原 保

福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座

各務 竹康

本原稿執筆(12月11日)時点で、第3波とも言われる新型コロナの流行は終わる気配を見せておらず、忘年会など様々な行事が中止になるなど、日常生活への影響も続いております。年1回、地方会の際に同時開催していた産業医協議会も、地方会の中止と共に今年度の開催を見送り、企画を次年度に繰り越すことになりました。

一方で私自身産業医としての一年を振り返ると、年明けより新型コロナの恐怖が押し寄せる中、企業活動の継続、労働者の健康管理等、どの事業所も苦勞する中で、医療情報の解説者、労働衛生管理の専門家としていつも以上に要求されることが多く、刻一刻と変化する状況に応じて様々な対応を求められました。自分自身も情報不足の中、氾濫する情報に巻き込まれないような道案内、リモートワーク、時差出勤など新たな労働形態に伴い生じた課題への対応、その中でも継続すべき労働者の健康管理など駆け抜けた一年であったかと思えます。

東北地方は広く、会員同士の交流機会も少ないです。会員同士情報交換、情報共有を行う機会がどこかで確保できたらと常々考えて来ましたが、オンライン化の波に乗り、なにか出来ないか、検討中です。アイデアなどありましたら提供をお願いします。

産業看護部

産業看護部会報告

産業看護部会 幹事

千葉 敦子

NTT 東日本医療・健康管理センタ

村越 亜弥子

新型コロナ感染拡大の中で、運営委員が集まることも叶わず、部会活動も停滞している状況です。このように、未知の対応に追われ、不安な日々だからこそ、顔を見ていろいろと情報交換をしたいと思い、まずは運営委員だけで初のオンライン懇親会を試みました。こういったITには苦手意識が強く、手探りの取り組みでしたが、結果としては大成功だったと思います。どこにいても一瞬で繋がれるのだと、便利さを実感しました。東北地方の移動距離の問題を簡単にクリアできることに少し感動し、世の中の変化についていかなければと心を入れ替えました。夕食を終えての時間帯でしたので、それぞれ好きな飲み物を持っての会合です。最初は慣れずにやや硬い表情でしたが、少しずつ場も和み、会話も増え、最後にはほろ酔い気分で有意義な情報交換ができました。

1月の運営会議もオンラインで行う予定です。でも、やっぱり、直接会ってお話するのが何よりの親交ですね。秋田の地方会では皆様と一緒においしい地酒を楽しめることを願っています。



産業衛生技術部会**「新型コロナウイルス感染症対策用換気シミュレーター」を活用下さい**

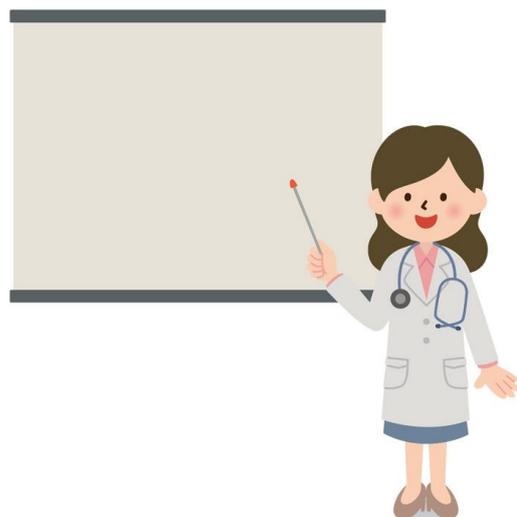
東北地方会幹事 河合直樹

産業衛生技術部会からの話題を提供させていただきます。部会有志で、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)集団発生防止対策に使用することができる換気シミュレーター(Excelファイル)を作成公表しました。このシミュレーターは、新型コロナウイルス感染症の集団発生に関連しているとされる「換気の悪い密閉空間」について、室内の換気状態の良し悪しを簡易に見積もることができるツールです。

【産業衛生学会HP⇒部会コーナー⇒産業衛生技術部会⇒「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策用換気シミュレーター」からダウンロード】

在室人数、部屋の大きさ、室内での活動状況、換気装置の条件などを入力することにより、室内の二酸化炭素の濃度を推定し、これに基づいて換気の良し悪しを見積ります。事務室、会議用の部屋、集会などの場所、家庭内など、屋内のさまざまな状況で利用できます。是非ご活用ください。

コロナ渦の状況下、弘前市で開催予定だった地方会が中止となり、当部会で企画していた神田晃先生(弘前大学)の話題提供「テーマ:健康と運動」も宙に浮いた状態になってしまいましたが、次年度、秋田での地方会で実施することとしましたので、どうぞご期待下さい。



2020年度 日本産業衛生学会東北地方会選挙 結果のご報告

日本産業衛生学会東北地方会選挙管理委員会委員長
東北大学大学院医学系研究科 大河内眞也

本年度実施した各選挙結果について報告させていただきます。

(今年度から全ての選挙は電子投票システムを利用しての投票となっております。)

2020年10月 地方会会長選挙、地方会代議員選挙 10月28日開票

地方会長 (1名)

黒澤一

(有権者 274名 投票者 74名 投票率 27.0%)

代議員 (25名)

青森県：井原一成 千葉敦子

秋田県：岩田豊人 野村恭子 森 洋

岩手県：坂田清美 田鎖愛理 立身政信 茂木 隆

山形県：河合直樹 今田恒夫 菅原 保

宮城県：五十嵐侑 井川資英 色川俊也 大河内眞也 小川浩正

黒澤一 齋藤慶史 清治邦章 中村 剛 村越亜弥子

福島県：各務竹康 福島哲仁 安村誠司

(有権者 274名 投票者 82名 投票率 29.9%)

2020年12月 地方会理事選挙 12月15日開票

理事 (2名)

黒澤一 千葉敦子

(有権者 25名 投票者 24名 投票率 96%)

任期は2021年3月1日から2023年2月28日となります。皆様の選挙へのご協力、ありがとうございました。

地方会長・理事ご挨拶**2020年の年末にあたって**

日本産業衛生学会東北地方会会長・理事
東北大学大学院医学系研究科産業医学分野 教授
黒澤 一

武漢の肺炎のニュース以来、2020年は新型コロナウイルス一色でした。社会は一変し、感染のリスクの中、万人が懸命に過ごしてきたと思います。弘前の本地方会のように、今年の諸学会は中止やリモート開催となりました。残念でしたが、参加の多様性を許容するなど、学会開催の新しい形は収穫の一つだったのかもしれませんが。新年、会員各位の益々のご健勝とご発展とともに、世の中のよい方向への展開を祈念したいと思います。

理事就任のご挨拶

日本産業衛生学会東北地方会会長・理事
健康科学部 看護学科 准教授
千葉敦子

このたびは理事に選出していただき、心よりお礼申し上げます。微力ではございますが、これまでの先生方のご功績を引き継げるよう、誠心誠意、努力させていただきたいと思っております。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、社会のシステムも、働き方も大きく変化しました。学会もまた、WEB開催、オンデマンド開催等、運営方法が変わりました。今後、ますますオンライン化は加速していくのでしょうか。東北地方にとっては移動コストがかからない分、この流れをチャンスと捉えることもできるかと思えます。まずは会員獲得に力を注ぎ、チームワークを大切に、東北地方会の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

会員の異動（令和2年4月から令和2年11月）

■青森県

新入会 相馬 香里

(ストレスケアセンターふよう)

傳法谷 純一

(医療法人 慈恵会 青い森病院)

■岩手県

新入会 丹野 高三

(岩手医科大学衛生学 公衆衛生学講座)

森田 結貴

(スリーエムジャパンプロダクツ㈱)

岩手事業所)

■山形県

新入会 林 孝昌 (新庄徳洲会病院)

■福島県

新入会 木村 洋

(南東北春日リハビリテーション病院)

山本 悦男

(やまもと内科クリニック)

羽仁 彩華

(福島県労働保健センター)

井口 正寛

(福島県立医科大学 脳神経内科)

転出 鈴木 直子 (埼玉県へ)

退会 田中 正敏

小室 安宏

刀根 彩香

■宮城県

転入 福永 久典 (神奈川県より)

荒井 由美子 (愛知県より)

泉 陽子 (大阪府より)

新入会 和田 彩 (学生会員)

尻谷 百萌

(SG ホールディングスグループ)

健康保険組合)

本間 詩緒

(プライムアース EV エナジー㈱)

二瓶 憲

(総合南東北病院)

尾形 静枝

(パナソニック健康保険組合)

野村 綾

(NTT 東日本 健康管理センタ)

宇都 恵美菜

(NTT 東日本 健康管理センタ)

羽鳥 智之

(一般財団法人 杜の都産業保健会)

西宮 愛望

(NTT 東日本 健康管理センタ)

荒科 悠子

(東北大学大学院医学系研究科保健学専攻)

公衆衛生看護学分野)

転出 津野 陽子 (埼玉県へ)

福島 花梨 (神奈川県へ)

二瓶 映美 (千葉県へ)

兵 行彦 (東京都へ)

退会 松村 賢

編集後記

年の瀬も押し迫った時期の発刊となりましたことお詫び申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、異例続きのまま新年を迎えることになりました。社会・経済活動や人々の往来規制が一時期に比べ緩和されて以降、感染者数が全国的に増加傾向となり、比較的感染者の少ない東北地方においても予断を許さぬ状況となっています。2021年は、産衛東北地方会も新体制での活動となりますが、早期に新型コロナウイルス感染症が収束し、7月には、秋田で皆様とお会い出来る平穏な日常が戻っていることを願っております。皆様、良いお年をお迎え下さい。(T. I.)